Heart Beauty Salon

サトリのココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法――

日蓮宗玉泉院住職
井上日宏さん

第28回

真実は自分の内側にあることに気づきましょう

いのうえ・にちこう　1928年、東京都生まれ。東京・深川で三百有余年続く玉泉院の第27世住職として布教に努めるかたわら、1969年より経営コンサルタント、産業カウンセラー、ライフアドバイザーとして幅広く活躍。また2003年までの34年間、教誨師として刑務所で死刑囚を教え諭す活動も。『一度の人生、「自分」を生きろ!』（サンマーク文庫）ほか著書多数。

私が刑務所の教誨師（教誨＝刑務所などで服役中の受刑者に対して精神救済の道を説くこと）をしていたころ、受刑者たちに「足の裏的人間になれ」という話をしました。これは仏教詩人・坂村真民の言葉を借りたものです。

尊いのは　頭でなく　手でなく
足の裏である
一生人に知られず
一生きたない処と接し
黙々として
その務めを果たしてゆく
（中略）
足の裏的な仕事をし
足の裏的人間たれ
（坂村真民『念に生きる』より）

「足の裏的人間」と言われても、みなさんはピンとこないかもしれませんね。そこで私は「足の裏的人間」とは具体的にどんな人間なのか、7つに分析してみました。

黙々と人のために努力する「足の裏的人間」になれ

一、愚痴らない人間になろう
二、がまん強い人間になろう
三、ねばり強い人間になろう
四、ちがいのわかる人間になろう
五、求める心を失わない人間になろう
六、目に見えない力を知る人間になろう
七、恩を着せない人間になろう

これからの時代を生きる人は、このような「足の裏的人間」でなくてはいけません。黙々と、自分が他人のために何ができるかを考え、社会に役立とうと努力することこそが大切なのです。

真実を求めるとはあなた自身を見つめ直すこと

以前、私のところに一人の女性が訪ねて来ました。「夫が浮気をしているようです。興信所に頼んで真実を尋ねようと思います」と。「その真実を見つけてどうしますか?」と聞くと「別れます」。「真実を見たい」という奥様を私はこのように諭しました。

「人間は矛盾と錯覚があるから生きられるのです。真実ほど辛くて苦しくて恐ろしくてたまらないものはありませんよ」「毎日が矛盾と錯覚です。かえって、見えない世界があるからこそ、私たちは生きられるのです。生きること、そのことが苦なり。耐えられるだけ耐えてごらんなさい」と。

そして、その奥様に「『らしく』という字は漢字でどう書きますか?」と尋ねました。「『らしく＝良識（らしき）』です。奥様は奥様らしくなさっていますか?　奥様の良識できちんと夫に仕えてますか?　その奥様は後におっしゃいました。「興信所はやめました。よく考えたら、自分の行動や考え方に欠点があることに気がつきました。真実は自分の中にあったことに気づきました」

真実とはあくまで自分自身の内側に求めるものなのです。

上／井上師による経営者指導の講演会。師の教えを乞うべく、毎年この講演会に通い続ける経営者も多数。右／東京・深川にある日蓮宗玉泉院。

撮影／光川十洋　取材・文／本木頼子　デザイン／黒田志麻